

人類の迷蒙を醒ます超宗教

発行所
京都市左京区
吉田神楽岡町3
世界救世教黎明教会
郵便番号606-8311
電話075(771)2022番

明主様の御教え

現代の世界では、文明と曰われる国程法的制度が進んでおり、法律条文も年々増えつつあるのは衆知の通りであつて、全く現代は法律万能時代といつてもよからう。従つて法規の多い事は、其局にある司法官や、弁護士なども、全部を覚えるには一生涯掛つても難しいであらう、事実自分に関係のある部分のみが漸くという位であるとしたら其効果は相当目に見える筈であるに拘わらず、肝腎な犯罪は減らない処か寧ろ

法律と人間の野蛮性

抑々、法の主なる目的は、社会から犯罪を減らし、遂には犯罪者なき世界を作るにある事は今更言う迄もないが、事實は前述の如く其逆であつて年々国会に於ては、法規の条文増やしが、議事の大半を占めてゐる。若し文化が予期通り進歩するとすれば、犯罪者は順次減少して、法規の条文中不必要なものが出るに違いないから、国会に於ての議事も、法規の一部廃止法案が討議されるようになるべき筈ではなからうか、

各面の内容

- | | |
|------|---------------|
| 2面 | 初代会長先生 御教えの研鑽 |
| 3面 | 春季大祭 |
| 4面 | 春期学生錬成会 |
| 4・5面 | お蔭二奉告 勝見さゆ里様 |
| 6面 | お蔭二奉告 馬瀬栄実様 |
| 7面 | お蔭二奉告 沖田弥登様 |
| 8面 | 無肥研報告会 れいめい俳壇 |

年毎に増えつつあるのはどうした事か、実に不可解千万ではなからうか、全く文化の進歩とは凡そ矛盾しているのである、そこで私は其原因に就て茲に検討してみようと思ふのである。

抑々、法の主なる目的は、社会から犯罪を減らし、遂には犯罪者なき世界を作るにある事は今更言う迄もないが、事實は前述の如く其逆であつて年々国会に於ては、法規の条文増やしが、議事の大半を占めてゐる。若し文化が予期通り進歩するとすれば、犯罪者は順次減少して、法規の条文中不必要なものが出るに違いないから、国会に於ての議事も、法規の一部廃止法案が討議されるようになるべき筈ではなからうか、

処が其反対であるという事は不思議であるに對し、怪しむ程の者もない、というのは何人の考えも、今更どうしようもないとして諦めている為であらう、之によつてみても、犯罪を無くすのは、法律だけでは到底駄目だという事が、よく判るのである、そうかといつて今の処、法がないとしたら、之は又大変である、そうなら最後悪人の天下となり、良民は逆でも枕を高くして寝る事は出来ないから、やはり法は法として今の儘にして置き、他の有力な方法を併せ行えばいいと思ふのである、然し外のものといつても、先ず教育と宗教の此二つよりないが、之も余り期待はかけられ得まい、何となれば何世紀、何十世紀それを経て来た今日と雖も現在の如き人間世界の有様であるからである。

之に就て以前もかいた事があるが、大体法律というものは獣を収容する檻と同様の意味で、つまり檻がないと人畜に危害を及ぼす危険があるから嚴重に太い格子や、網を張つて漸く取締つてゐるにすぎないので、彼等は隙があると破つて出ようとするから、段々細かく隙のないようにしてゐるだけである、其手段として年々法を密にし、取締りを厳にするのであるから寧ろ人間の恥辱といつてもよからう、其様な訳で今日の人間は、獣と同様の扱いを受けているとしたら、余り威張つた口は利いたものでは

あるまい、従つて之等の点をよく考えたら、一日も早く目覚めるべきで、昔からよく言われる人間の形をした獣とは現代人にも当嵌らない事もあるまい、之を一言にしていえば、まだ半文明半野蛮の域を脱していないのである。

とはいふものの、それにも厚薄がある、即ち人間扱いをされていい人と獣扱いをされなければならぬ人があるのは止むを得ないので、国にしても軍国主義と、平和主義とがある如く、前者は野蛮国であり、後者は真の文明国である。

次に教育であるが、之も今日は既に試験済みとなつてゐるから、敢てかく程の事もないが、知らるる如く之も幾世紀に涉つて、大勢の学者、教育家等が努力して来たので或程度の功績は認められるが、それ以上の力はなかつた、尤も野蛮時代からみれば人智は進み、政治にしろ、社会機構にしろ凡ゆる方面に涉つて驚くべき進歩発達を遂げたのであるから、全く教育のお蔭も疎かに出来なないが、そうかといつて精神面即ち魂の改善には、力が足りなかつた事は争えない処である、何よりも法律という檻を不要にする事が、今以て出来ないからである、教育の問題は此位にしておいて、次の宗教であるが、之も昔から偉い聖者や、卓越せる偉人が幾人も現われ而も其弟子や信徒達が生命を賭し、血の滲むような苦辛努力を続けて来たに拘わらず、或程度の精神的救いは無論認められるが、法を不必要とする迄には到つてゐなかつたのである、としたら既成宗教にも多くの期待は持てない訳である。



明主様御真筆 鶴亀

そこで人間から真に獣性を抜き、檻を必要としない社会を作るには、どうすればいいかという問題であるが、之こそ凡ゆる既成文化を超越した破天荒的な力が現われなくてはならないのは言う迄もあるまい、処が喜ぶべし、其力こそ主の神としてのエホバから吾等に与えられ、今現に発揮しつつある事実で、之が本教の真髓であるから、本教は全く超宗教的大いなる存在であつて、やがて来るべき光明世界の先覚者として、第一番に人類の迷蒙を醒ますべき警鐘が此文と思つて貰いたいのである。

魂を向上させ善の世界へ

初代会長

多田 光行

私共は法律によって社会の秩序を保ち、悪を制御してきていたわけでございます。しかし、法律をより完備していけば、この世の中が理想の世界になっていくかという事になりますと、そこには色々と問題が出てくるわけでございます。もちろん法律というものは、非常に重要なものであるわけでございますけれども、せっかく良い法律を作ってみましても、それを悪用する人がたくさんいたのではいけないわけでございますし、その法律をより多くの人々の幸せのために活かしていかねばいけないわけでございます。

明主様は、法律についての色々な御教えを説いて下さっているわけですが、その中の一つであります『法律と人間の野蠻性』(榮一八)の御教えをご一緒に拝読させていただきたいと存じます。

明王様が、ここで仰つておられますように、今まで私共は法律によりまして悪を制御し、また社会の秩序を保つて、少しでも人間の理想の世界に一步近づかんと努力してきたわけでございます。そのように法律によつて、ある程度この世の中の悪が制御できたということも事実でありますけれども、しかしそれだけで、この世の中が本当に良い世の中になっていくかというと、そうはいかないわけでございます。

先程も申し上げましたように、せっかく良い法律を作りましたが、それを悪用したり、あるいは法の網の目を何とか潜り抜けようということばかり考へて、法の盲点をつくというようなこ

理想世界を築く

本教こそその役割を担っている超宗教

とはかりやつておりましたならば、いつまで経つても良い世の中にはならないわけでございます。

おられますように、法は法として、これは一応置いておいて、一人一人の人間の魂が問題になってくるわけでございます。別に法律があるうがなかるうが、あるいは取り締まりが厳しかろうが厳しくないだろうが、自分の魂がたへんき起った気持ちで、善の道の方へ進んで行くようにならないといけないわけでございます。自分自身の魂の力で悪を抑えて、お互いに社会を良くして

ていこうというふうにならなければいけないわけでございます。善の道に遊ませていただくという現の人間に一人一人がなつて初めて理想の世界が出来上がっていくということを明主様はここで仰っておられるわけでございます。

今までは、宗教あるいは教育がその役割を担ってきたわけにございます。もちろん宗教によって非常に心が清められて、悪を無くしてきたという今までの功績はありましたし、教育によって人間が非常に善の方に進んできたというところもあるわけにございます。けれども、この世の中から法律がたとえ無くなっても、悪いことをしないと云う魂の人間に皆がなつてをしないと云うことになりますと、これはなかなか一朝一夕にはいかなかったわけにございます。つまりにはもつと私共の魂が目覚める、つまり私共一人一人が、心底から神様を信じ、そして神様の御心に叶うようにならせていただくというふうになつていかなければいけないわけにございます。しかも、自分の魂から湧き起こった気持ちでもって、そういう魂に一人一人がならせていただくわけにあらぬわけにございます。そうなるべくして初めて、この問題は解決していけるわけにございます。

もちろんこれは一朝一夕にはいかな
いことでありますけれども、私共が、
最終的にその方向へ進んでいかなけれ
ば、いつまで経つても、この世の中か
ら悪を無くすことはできないわけでこ
ざいます。そのことを、明主様はこの

本当に良い世の中へ
魂を目覚めさせて頂く

御教えて仰っておられるわけだと思ひます。

そういうふうにならせていただくためには、神様を心から信するように私共がならせていただく、いわゆる超宗教と申しますか、そういう力ある宗教が出なければいけないということになるわけでございます。そこで、明神様は、本教こそ、その役割を担っているということを仰っておられるわけでございます。

このことは『神を見せる宗教』（榮一七六）という御教えの中でも仰つておられます。今までの宗教でも、もちろん神様を信じるようになられた方はたくさんございまして、魂が目覚められてゐる方もたくさんおられますけれども、現在の社会では神様をなかなか信じられない方が多いわけですから、そういう現在の社会において、魂の底から神様がおられるということに目覺めさせていただく、そういう力のあつる宗教が生まれなければいけないと、主様は仰つておられるわけでございまして、本教の淨霊は、いわば、そのための神様の御心の顯れであるわけでございいます。

この御浄雲の御力は、最初神様を信じていなくて「こんなことで良くしていただけるかしら」というような気持ちでおりまっしてゐる、私共に大きな御守護を下さっているわけでございます。そういう神様を全然信じていない人々にも神様がおられるということを見せ下されるために、神様が与えて下さったのが、この御浄雲であるわけでございます。

こういう素晴らしい御力によって、私共一人一人は本当に神様がおられるということをご心から信じさせていただけのわけでございます。そしてさらに、神様の御心に叶うように努力させてい

ただこうという気持ちにならせていた
だけるわけでございます。神様は私共
を常に見守って下さっているというこ
とを、本当心の底から信じられる人
間の世界になって初めて、この世の中
が実際に良くなっていくわけでござい
ます。

私共は、自分は神様を信じていると思つておりまして、何かことがありますと、忘れてしまふというようなこともあるわけがあります。常に神様を信じ、そして神様の御心に叶うような人間にならせていただくこと、私共一人一人が努力させていただいて初めて本当に良い世の中になっていくわけだと思ふわけがあります。

もちろん法律も、全然無くなるということはありませんでしょし、社会の秩序を保つためには、やはりお互いに取り決めをしなければいけないこともたくさんあるわけだと思います。けれども、その法律が本当に人間の幸のために役立っていくように、活かしていけるようになっていかなければいけないと思うのでございます。

憲法記念日などには、新聞だとかテレビなどでも、色々と専門の方々がそれぞれのお考えをお話になつておられます。それぞれの立場で色々なお考えがあるわけでありまして。けれども、私共は一番奥の、根本の問題を解決させていなければならぬわけだと存じます。

せつかく良い憲法、あるいは法律を持つていても、それを人間の幸せに活かすためには、私共のいわば、魂の問題、魂が目覚めさせていただくという、その一番大切な部分が欠けていたのではいけないわけでございます。この事を、ここでもう一度思い返さなければいけないと思うのでございます。明主様は、その事をこの御教えでお説き下されたのだと思うわけでございます。

教育の問題、あるいは宗教の問題も同じことだと思いますが、今回は『法律と人間の野蠻性』の御教えをご一緒に拝読させていただいたわけでございます。

長女が2人目を妊娠

4人家族の成長

長女が2人目を妊娠

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

切迫流産の可能性あり 安静にする

それまで、長女の妊娠を知らなかった。加齢は11歳と、産前産後の事ばかり、自転車やバイクで通学していた。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

2023年5月頃、2人目の妊娠が分かった。長女は、5月24日、会社で出血した。産婦人科病院へ行く。産後、経過が良好だった。

自宅で大量出血

40分程で普通分娩で男児を出産

コロナ禍での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

自宅での制約中 許可が下り入室できる 御浄霊をお取次ぎ

御浄霊をお取次ぎ

も乳飲んで育つ はよく調順 次男よく調順

次男よく調順

次男よく調順

私に頂いた御守護

自転車事故 全身を強打

御浄霊の 御力すごく 痛み治まる

御生誕祭の祝賀演奏

お許しが頂ける限り
続けさせて頂きたい
と思わせていただく

最後に私ですが、2020年6月に長さ1m以上の自転車に乗って、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

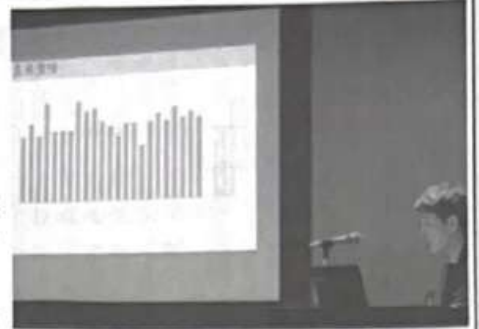
2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2023年7月7日には、不慮の事故で、足の下でカーブを走行中、私の前方不注意で向車に衝突。歩行者として歩いているように思っていました。

2022年度NPO無施肥無農薬栽培調査研究会研究報告会



報告される無肥研メンバー

除草作業と収量変化や
無施肥米の品質評価など

無肥研メンバー：大学の研究者らが10題を発表

3月13日、2022年度NPO無施肥無農薬栽培調査研究会(無肥研)の研究報告会が豊田ホールで開催された。過去2年間はZoomによるオンラインのみの開催でしたが、今回は4年ぶりに会場での開催に加えてオンラインでも参加できるハイブリット開催で、合わせて約80名の参加がありました。報告は京都大学、京都府立大学、東北大学、奈良先端科学技術大学院大学などの様々な大学の研究者、そして無肥研メンバーらによって行われ、10題の発表がありました。そのうち4題はオンラインでアラジナルからの報告となりました。会場には無肥研事務所の堀江武先生はじめ、合計7名の大学の研究者らが会場にお越し下さいました。

京都大学大学院の岩崎先生、多田先生が会場を盛り上げて下さいました。長年無施肥米の栽培の経験豊富な岩崎先生は、無施肥米の品質評価など、様々な立地条件の圃場からのデータが豊富にあるため、無施肥栽培において除草は大切な要素と述べられましたが、水田の多数回中耕除草やアイガモ口ボを用いた

雑草管理など、除草作業と収量の関係に関する報告がありました。除草作業は雑草除去の効率がよく、土壌微生物の働きがよくなることで、圃場での栽培管理だけでなく、ドローンを用いた水田内の生育や収量変動を診断する報告やイネ共生微生物に関する報告もありました。無肥田と無肥田の微生物組成の相違が顕著なことが示され、予想以上にすぐにはつきりしないことが、今後のさらなる調査範囲を広げて実験を継続するとの報告がありました。

報告は水田だけでなく、私達の生活に重要な、ジャガイモ、ダイズに関する報告などもありました。茶に関する報告は、調査員に茶の栽培の経験が豊富で、茶の栽培に関する報告が少なくないことが報告されました。また茶園土壌調査では細菌や化学物質などを調べ、有機、無肥栽培を比較してのデータが提示されました。ジャガイモに関しては、連作障害時の収量変動や無施肥栽培に適した品種の探索に関する報告がされました。ダイズ栽培に関する報告では、初期生育における葉と茎の発病発生との関係に関する発表がありました。久しぶりの会場開催でしたが、研究報告に対して会場やオンラインからの質問が非常に多く、非常に活発で有意義な報告会となりました。

報告会の最後に堀江先生は、世界的には国連の持続可能な開発目標(SDGs)のもと、これまでのエネルギーや資源を使う産業活動の見直しがあったり、日本では農水省の「みどりの食料システム戦略」が示すように大きく農業の在り方が変わったりしている。無肥研が蓄積している経験、データ、知見が世の中

に貢献できると思い、まずと仰られました。2000年に本研究会が発足し、今までの研究成果を本にまとめ出版することを堀江先生は計画して下さっています。

報告会後に行われた懇親会には40名の参加がありました。無肥研無農薬栽培米吟醸酒「京神楽」で乾杯の後、様々な無肥栽培の経験や疑問に就いての話し合いが行われました。久しぶりの無肥栽培の交流を交わす方々の交流を喜んでおられたり、約20年ぶりのこの会に間に合っている、発表のレベルが上がっている、以前にはこんなところではなかった、などと思うようなことが現実になり、発表として出てくるという状況を喜んでいるとの発言がありました。

明主様は、「農業が先に分かるのです」とおっしゃって、おり、今世の中は、その真の豊かさを手に入れるというように思っています。豊田光雄会長先生が中心となって無肥研を設立された24年、

約80名参加 ハイブリット開催



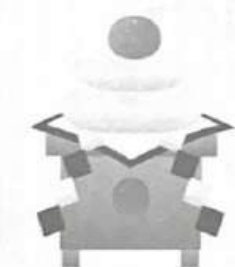
多くの質問があり、有意義な報告会となった会場

明主様の御守護のもと、少しずつですが確実に歩を進め、今ますます重要な時期を迎えています。一日も早く一人でも多くの人に真の豊かさを伝えたいと、できる限りその努力をさせていただきます。と思います。

(丸田 信子)

れいめい俳壇

◇…2023年1月選句…◇



若草の会
万国を潤れなく包む初御空
初比翼覚悟を胸に担い継ぐ
アルバムを仕舞ふ名残りの年の夜
初風やふと懐かしき声届く
神前に祈る昔へ初西
身の丈の確かな一歩大且
我が道は御心のまま初明り
初夢や会ひたき人と会ふ時間
寂気満つ心を照らす神のこゑ
稲穂むや歌合戦見妻の横
一歩二歩上り初日の出
三十路へと踏み出す一歩初元日
願はくは師の選にや初旬会
三行に文字きらりと初日記
初旅や準備こそこ出発す
初明り青く輝く星一つ
初尾や一浪目指すサラリーマン

末っ子の鼻先赤しクリスマス
手袋の三歳の児は関西弁
年輪を重ね夫婦の初詣
喧嘩のネット注文夫の思い
知能関ふ拒絶の中の子の遊び
ストーブを背にうとうと日曜日
三枚のTODORIS新年新た
去年今年肩身の狭きホテル族
友遠くや慰めに赤き冬の月
友の吹くハモニカ清々冬木立
新しき命の誕生初詣
初鏡笑顔とあがは交はしをり
一息も二息もつくり四日かな
自立する子の見送りや独り暮らし
我先に十七歳の初鏡
三日仕事する人遊ぶ人
初日は一歩に満ちる涙かき
見舞ひ箱はどいて冬はまたいら
雪が降る隣の家は遠くなり
祖母の手巧みの技や鏡餅
ほろ酔いの父と風揚げ鏡餅
ブレセントの父に目ざめる冬の朝
弟とケーキを作りクリスマス
けい古終る賀茂川の上冬の虹
冬げい古足こしい休め場所す

多田 光子
小林 正幸
小田 多津
荒木加代子
成宮 雅子
五條 直美
吉岡 知子
伊吹 博
林 京子
鈴木てるよ
中岩紀美子
平田 恭子
寺岡 直美
森 ユカリ
中島トモ子
下平みのり
家田 由美
野口利恵子
丸田 信宏
藤田 恵子
西田 貴造

松本美恵子
高橋由起子
西尾 美喜
上村 公美
小林 舞桜
家田 建郎
多田 光史
山田 光恒
山田 光均
高橋 如音
高橋 和
伊吹 博人
松村 勇輝
伊吹 美都
伊吹 誠彦

